



門未加
號 648
卷 1

臼井憲成編輯

雅言略解

明治十四年 石川縣
版權免許 金澤區
三書堂梓



松香齋



水香山人



満積
子

秋のまうらけつひを
三階 柳子 吹くくはる
はるはるをまはる

海のいほほひつる
旅をまはる

海らのききれ月うら
まをまはる

橋のききれ月うら
まをまはる

榎本
文庫

福
山
文庫

よいふにせしむるはなほあり
 してあはれまの縁よあはれあり
 ともあはれありやまもあはれあり
 しかかかきしとあはれあり
 ともあはれありまの縁よあはれあり
 年一にわたりあり

高橋の巻

雅之畧解此ゆゑなり

一 おのきとやもや前々書々と流刃とらち藤純の
 心小意場とある詞ももこれのきぬき書と流刃を
 先てハ物見とれらち此を尋ねらよつたき
 之のきぬきと文中も見いては心といふは入るは
 されはあはれひみ十音承りとも常は詞と心毎
 集へ見えやまむ心とてあはれら元来^{モト}承^{ヨリ}濱乃
 志砂の敷ふもあはれと心とてあはれら七は心と
 庵くはあはれと心と今少一増あはれら心と心
 一かき初めなり一また心といふは心と紙敷に

多くがむむむいといひてこゝろく事と記せらるる也
 昔より博識人の次く著述せる書多かれと或も
 見ふ簡易を主とせりて尋ねるものなれば
 多くゆゑに廣くいつる見せしむと説れ信るべき
 俚言と申くは海内を繰り見おし煩うくやふ
 たよりと云ふは得たれかゝるるなれば初学の
 ひとそり百の二つも補助小がむむむとせらるる也
 常の河の渡るる多きは跡より拾遺小物と云ふ
 冠辞いふはれあやむいふせり委く冠辞考は
 見て知るべき也まゝ同一事なり枕詞と云ふ

変れらるる宣長大人今の世よりいひさるる
 枕詞といひてぬらぬらとて記傳をいふも
 志るるは彼大人に説の條は枕詞といふ
 ことと云ふ二つを書しをれらるる也
 漢字のこを挙げて外に畧解のるに仮令いふ
 松待かこ小川皮ると今世はるる漢字
 を見て其義を志れらるる也
 一 およふちつき辞をいふは初まるひのやと
 一 かか城事ゆとふのゆゑる也
 一 ことの義を異ならしむるは同きことと條に記せり

一 此と清濁のせもめらるるべきなり
 一 辞の活用ハクシのきりくわむのきせり
 おぼきふりしが傍カクシふちひきくむのきせり
 活用ハクシのきりくわむのきせり
 一 草木虫魚カクシの名和名抄又本草和名カクシの
 清濁を別ちて出されぬカクシのきりくわむのきせり
 濁点とくりに跡カクシ考へぬカクシのきりくわむのきせり
 明治十三年四月石川縣金澤區住臼井憲成記

雅言畧解卷之上

臼井憲成 編輯

アノ部

あ 吾我畔 田界之傳ニ古ヘハアとの云リ和ニクロー云
アセ

躬恒集これめ字時アあるまき苗代のアをふ字とらるるなり

あ 天記又雨記又飴和ニ米麩煎也又鮎似鱒者也

あ を 梯青 色ニ又阿桑 若狭マシ

あ は 同粟 穀ニ又淡 たけくしきニ又安房 國ニ又阿波 同

又阿拜 飛驒マシ又記ニ僕者 吾者ニ

あ ろ 同藍 深草

阿すえ 傳 足羽 越前郡之 又 安須羽神 踏立了足場の神也

阿いた 榊 秋田 出羽郡之 又 英多 美作郡之

阿ゆち 同 愛知 尾張郡之 吾湯市之 阿伊知と云ふこれらのいそ平云こ

阿らち 玉 愛發 越前の関此名又人の名をとり

阿ふち 種 棟 木之 又 樗 和ニヌデと云り

阿えぎ 和 檍 檣木一名之 梓之屬

阿しび 万 馬酔木 古くハアセと訓一あらん抱きともアセと云木ルあるへ一字ヲ泥むことふくれと云り

阿さく 和 苜蓿 叢生水中葉圓在端長短隨水深淺者也

阿ざみ 同 薊 味甘温令人肥健大小薊葉並多刺

阿さく 同 臍子鳥 或説云此鳥群飛如列卒之滿山林故名臍子鳥也

阿ふこ 梯 劫 物を荷ふ木之古今集逢期は添く和ニ杖ノ名之と云り

阿しだ 和 履 一名足下

阿ふぎ 梯 扇 又 仰 天子向ふ之

阿ぐら 傳 兵床 又 胡床 高き床之名義揚座あるへ

阿ゆひ 梯 脚帶 傳ニ袴をかけ其膝のりくろかどまて結固むら紐と云えり小鈴ハ古ハ足もと云へ

阿ゆみ 傳 步 言義更讓のまかりし

阿じろ 梯 網代 魚を取構へ

阿ふひ 同 葵 草之逢日子添

阿さく 万 求食 義訓ハ潮島廻ふと云り

阿むち 種 惶急 又 周章 阿さくと云も同

わらわ	梯	何憐	歎辭之。私云喜きもかあつたも凡て心は感しと 声も出まを云
わらわ	梯	顯露	
わらわ	同	贖	
わらわ	同	洗	
わらわ	同	喘息	病之。去海云病もわらわ 淡に云る勞之
わらわ	記	惜	本愛惜のまより出はしむ
わらわ	和	昌蒲	草之本草和名同。又 今常ふ草とかく
わらわ	傳	散	古言
わらわ	響	厚	厚くわらわを云うをくあをうすれつうあをう ると云ふ同。きつひあしん
わらわ	梯	與	紀與二夜而服と云ふ同

わらわ	同	價	當易へテカの約タシ
わらわ	同	預	端附之
わらわ	同	敢	評云わらへの語意へ皆同敢堪の字もあづまざん
わらわ	同	不堪	万ニアヘム
わらわ	同	間	
わらわ	万	贖	又餘
わらわ	同	靈	
わらわ	同	數多	
わらわ	同	霰	和ニ美曾礼とわらと集中多くわらんとよめり
わらわ	同	蜻蛉	虫へ後かけらふと云

ちぎけ	同 朝明 又 且 閑 約訓
ちたう	万 邊 中
ちどか	梯 篔 竹器
ちぎひの	傳 朝日之よて 咲栄の枕詞
ちまぢる	遠 天霧合のほくまれろ
ちまゆき	梯 沫雪 傳ニ多ク雪のこと其ノ味ニ似たり故ニ云ニ 又まの雪のいりやもろ
ちまたむ	傳 天飛ぶて 雁と云意ふつきる 輕の枕詞
ちかび	梯 葦芽
ちまがね	同 万ニ 權 字鏡ニ 桔梗 和ニ 牽牛花 訓皆同
ちまぎわ	同 紫陽花 草ニ和ニアツサキとらり

ちまぢふ	同 浅茅生 此ふハ半濁ノ字の如ク唱
ちらき	和 蘭 薑 薑蒜ノ類
ちらたへ	梯 鹿 栲 栲の訓多ノ部ニちり
ちぎぬ	和 純
ちまぬの	同 紵 布 俗用ニ麻布ニ字
ちまがみ	遠 葦 鶴 芦の花此白きを白鶴と云せり又万葉集ニ 白鶴とちりつと云り
ちまびこ	同 天上の人をとり 物結と云これれんえと云
ちげまね	和 總 角 結髪也
ちとらひ	響 後 伴 私云一つのトハまある時あつ○万ニ誘入とらり 例ありん
ちとろか	遠 跡 量 許 量許の字を用かてそとろも因りそとろとハうり定む事ありを云

ららま

種

行先ふせんと思ふ事をか終て云廻

櫛畧のことあり

らまさへ

梯

剩

餘副也

らやあ

同

危

らやぐーと書ひまう

らたあふ

種

仇まゝ

あひ辞荷まゝをふあめと云す同

らきあひ

梯

商

又估 交易ふあひの上同

らあひ

同

麻柱

造作、具へ 去ゆ云今いふ是代のるこ

らづまや

和

四阿

宮殿皆四阿○湖月抄ニ四方へらまづりのおつるやう

らひおい

梯

相老

相生の事とするは誤○又語彙ふ相追とらうて互

らぎとふ

記

兒の初て物云をつ

始阿藝登比志多麻比支

らげほの

万

會明

又曙 未明

らたまぢ

傳

強

北野このか言意あり

らやまち

同

過

又

らやかる

玉

此詞拾遺集

うせまやまの昔歌のどをすれそ

らやかく

遠

頭 誤もなき差別ありと云ふ同

私云無文のこころ

らうあめ

同

らうあめの延

らちそひ

梯

争

又万ニ 荒争 競争

らるひえ

同

或

一謂ん

らくがれ

らきあ

らきあ

梯

朝津

越前

荒木田氏何れの約うとあれいふかれと因云と流すまつありか
久老説へたれとさめてい通えさる古歌も多うあのみ思ふはれの
アハちんらうしと云アまて互のり成く何処のくあて処の流るれ目
うれすと云カレを離の流るを離るを云こなり

らまかつ	湖月抄 小児三歳まゝこれを用美の凶子を是おあするん 這子のやうおつくわす物ん
らまゆ	響 おそまゝとよる通ひておそまゝの飛の於須女のオズと あつん
らつーく	源 彌留 紀此字をアツレレとよめり痛のおりあゝまゝん 篤癩をアツエヒトとよめりふらせせくふあへ
らけぐれ	湖月 朝くらりさむを云
らうつき	万 葦附 海苔の類越中雄神川お生け今庄川と云大伴宿祢家持 乎加未川これおろ白おをとめらう芦付と云と湍まてすらじ
らつこひ	梯 喝 傷熱ん
らさひか	同 朝夷 安房郡又駿河遠江に
らるひき	冠 茜刺 みて日の冠辞 万ニ赤氣指とらう
らまざか	同 天離 少て鄙の冠辞
ららか終	傳 舎根之みて土の枕詞 土ハ殿舎根あうようん

らとゆき	同 沫雪之みて若の枕詞
らぎぐもの	同 青雲之みて白の枕詞
らぎふや	同 青土ヨシみてナラの枕辞 ヨレのヨを呼出を何あり シハ助辞少てまゝあうさそ
らまより	同 麻裳ヨシみて著の枕詞 ヨレハ上の青土ヨシと同 ナラとつくはその土を平一堅むる意へ〇万ニ青丹吉あうかま 弥百土の借字と云り
らひきの	同 足引城之みて山の枕詞 足ハ山脚引ハ長くひきまを くろを云城ハまて一うまへ
ららたまの	同 荒璞之みて年又月の枕詞 アタラマの約りまを タラヨと云もくヨと

あつてマハ間マ
程とまよ同

つぎぬの	冠 梓弓あく張の冠辞
つぎぬの	傳 鮮衣之ふて三重の枕詞
つぎぬの	同 葦來散あく難波の枕詞 <small>葦來散を本きて芦此穂の散来るとり</small>
つぎぬの	遠 朝朗明のほくまぬるこ
つぎぬの	傳 朝目吉 <small>後世人も胡よりき抄をえんれハ朝目よりとて收ふめり</small>
つぎぬの	同 飛鳥川 <small>大和より河此地名天武の御時紫もえ年とらうらけ此の名を冠せしむるれ明日香と云はれ枕詞の字をやうく地名も用かき書さる河内のアスカもはよありて</small>
つぎぬの	種 無味氣 <small>万同の或説ありろつるる考とらひ</small>
つぎぬの	記 論
つぎぬの	葉 白地 <small>偷問又取急 源語梯 紀急の字倏忽之間あとの字とらめりレバシノホドナリ</small>

後ハ白地の字をよませりハ明様の義もつらうのあくはあし
明き意もて本義よりつせりハ私云此本義よりつせりといひ
てつらうつらつせりまふ後世用かき事多しハ本義を誤れり
とこそ云へられ白地の文字ふゆめありまされ

種 惶急の意

此アエヌと不交と解するハ保へ交ハアへて假字も異ハアエハ
本草の實ける事とて又ハつらうも早ぬハガニハカネニのつら
まうらうもあてむらうハ后う終あといふハ同云まて古うも老ら
うらうもあてむらうハ万葉もあてむらうもあてむらうもあてむらう
言のまの像て後らうらうハ万八巻あるハ実まわらうも後らうら
て花の咲くこととて下界アエアユと活く

万 雨障 慎へ又らまさらうと訓り 歌文 雨謹 ぬふおは出 要語 ささる

傳 天津日繼 日天御神の御任を受侍人坐て其大御業を天皇の嗣々知し者ま由の標

同 天之真名井 天安河川の内を云名井といはれりて川池何処も用る水と汲りてり

葉 葦の丸屋 まらハ全き葦あてりて葦の丸屋といはれり

つぎぬの	冠 梓弓あく張の冠辞
つぎぬの	傳 鮮衣之ふて三重の枕詞
つぎぬの	同 葦來散あく難波の枕詞 <small>葦來散を本きて芦此穂の散来るとり</small>
つぎぬの	遠 朝朗明のほくまぬるこ
つぎぬの	傳 朝目吉 <small>後世人も胡よりき抄をえんれハ朝目よりとて收ふめり</small>
つぎぬの	同 飛鳥川 <small>大和より河此地名天武の御時紫もえ年とらうらけ此の名を冠せしむるれ明日香と云はれ枕詞の字をやうく地名も用かき書さる河内のアスカもはよありて</small>
つぎぬの	種 無味氣 <small>万同の或説ありろつるる考とらひ</small>
つぎぬの	記 論
つぎぬの	葉 白地 <small>偷問又取急 源語梯 紀急の字倏忽之間あとの字とらめりレバシノホドナリ</small>

つまのよさつら

梯天吉葛

ついでうゑ

湖月

葦手哥繪

後の中と文字ふつらうと物へ或注より
てい芦をよむ後よ書文字や書きとらる

つよひとさ

梯

蒼生

人民へ昔人艸 又ヒトクサ

つよきたさ

同

左ふらせれい右ふ足ぬと云意へ

つよごがろ

同

後語

あつうことふ同くそしるまへ

つよかたのこ

種

無取憑のつらや

私云アヒアへうあくとつらつら
頼りけあれを頼ひまへん

つよかふき

和

桔梗

草へ〇私云和名うれとも哥あひらさうよふ
まききちうらうと物の名あて古今よあう

つらきのま

傳

殯宮

いまく葬らさう程始く収金処と云

つまのさかて

響

天栄手

天へ九て上代ふの折へて云栄手へ其爲業ふ
栄らうせむとてまを拍て物とらる

い

寢寐眠宿膽射五鑄二字五十蜘蛛一音

い糸

種

稲上よ玄糸の付り糸も云又

寢いぬらとも云

いほ

同

五百

数へ又庵いあつとも云

いひ

同

飯

食へ又言いせんりつへ共活く又

槭

いろ

梯

鑄

銅錢を又熬物を乾す又

射弓を又入

いま

傳

今

はいまふらうの玄りつ一つふ八字めく常云いまちり
二つあそ今ひらふと云て有う上は梯いひとも云

い

三つふハ

將然ここの近きを云俗よやがておつけとらる
とらる今えらとらとら

イノ部

いけ	梯池 万ニ沼也、いけともあり又 生 <small>カセケケと約了</small>
いや	同 彌 <small>いよとも</small>
いろえ	同 家母 母之〇私云イロあつむえハ母の畧
いせ又孫	同 家兄 兄へ又 <small>イロト</small> 家弟 弟へ私云いろハ上小同いともおとの畧
いとこ	同 従父兄弟 父の兄弟は之〇私云父のとられハ父母のあつむ
いせせ	種 妹兄 又 夫婦
いま	梯 汝 万同
いのち	同 命 又万ニ 壽
いみか	同 諱 忌名へ
いごふ	万 息 梯ニ息を延之是を游イゴノフ <small>いごふ</small> 種ニ 休

いぢえ	梯 嘶 馬鳴へいぢえといまへく
いびき	同 斲 斲息へ
いぬか	種 乾 方角へ
いろう	梯 嚴 又 重 又 茂 又種ニいろうともあり
いたむ	同 充満 紀ニ 屯聚居之
いらふ	万 奈何 種ニ 如何
いっで	種 爭
いつる	和 弋射 矰繳所以加飛鳥也
いそぢ	種 五十 いろとも云
いさり	梯 漁 捕魚ニ

いぢひ	梯 赤檮 又 檨 木
いけき	同 籬 <small>註池の中小竹此籬を編魚を養ふ</small>
いぢき	傳 稻城 <small>稻を色子垣を固く結廻り一垣を深うするをて一うまの処を城と云又姓の尸よりくるも有り</small>
いくり	梯 海底石
いらら	同 豊 <small>屋棟之和言在上覆家屋也</small>
いづき	同 齋籬 <small>神ノ籬</small>
いたび	同 齋 又 祝 <small>評云いぢひの忌より出</small>
いたや	和 窟 <small>土屋の一云堀地爲之</small>
いつぐ	梯 何處 <small>いづちの何路</small>
いぢむ	同 辭 <small>下受いぢひとも有り</small>

いのる	同 祈 又 禱
いさぢ	記 哭 <small>哀声</small>
いたち	梯 鼬鼠 <small>小獸</small>
いろら	同 鯨 鮪 <small>大魚</small>
いじ	同 鰯 <small>小魚</small>
いむき	同 蛸 <small>小蟹</small>
いちび	同 茵 <small>草之註今編茵爲行纏</small>
いたひ	同 折傷木 又 木蓮子 <small>木</small>
いちご	和 覆盆子 <small>草之紀</small> 蓬菓 <small>訓イチゴいちひこハカク</small>
いきす	梯 海髮 <small>海菜</small>

いとほ	梯	巖	高大石也
いむべ	種	忌瓮	又 忌部 姓ス又万ニいむべともあり
いくそ	同	幾十	いくらの幾らへの助辞又万ニいくごモアラズおどらうてくれも幾也
いきご	梯	砂	細石也
いづみ	同	泉	出水の畧
いうり	和	碇	海中以石駐舟曰碇又万ニイカリ又 重石又 怒又 恚
いうた	梯	笱	小ヲ曰笱
いづた	和	鎔	鑄鐵形也
いくさ	梯	軍	戦ス万ニ軍士軍卒をいさともあり
いどむ	同	挑	争ニ

いよく	種	彌	
いたき	同	抱	兼ニいも発語也常小たくと云
いやし	梯	賤	又 卑又 鄙
いちめ	種	市女	
いらべ	同	答	
いまは	梯	在	又万ニ 往座
いつく	同	五	数ニ和ニ五穀をイツノタナツモノとらう
いとま	同	暇	
いぢび	同	駄	
いみじ	種	甚	又大

いけどり	梯虜	生ケ取
いろくづ	同鱗	魚甲又イロコ
いしをち	梯鯨	魚
いしぶ	同鯉	魚
いしがた	同秦龜	山中ノ龜
いたどり	和虎杖	草一名武杖
いぬたで	同紅草	草一名遊龍
いきぐさ	同景天	草一名慎火避火故以名之
いへおれ	梯兔葵	草
いをすき	同商陸	草

いもがら	同蕺	芋莖又イモシ
いえぐみ	同卷拍	草又イハゴケ
いろどり	種彩	
いとゆふ	同遊糸	私云春の陽氣中空糸の如き云
いふし	史古	街ノ一カ
いさくめ	万卒爾	遠ニカクそめてふまとおりの
いさらか	乘小井	
いたぐき	梯頂	頭上又
いもがら	戴	又
	巔	山頂
	王妹許	田中道磨問答妹之を初めてを畧す かろをうと約めつゝかろとハ後撰集ハ 君ハ尋ねんとあつたかと問ハ妹ハ うらやみのあつておののこひてその 如き事

つるの甲の所よりしうねい
ゆくとしうねくとつるあり

いちぐら
梯肆 市舎ん

いもんや
王況 いもん及つれと云ま之宝物集ふやんや十六
丈とや況や金銅をやと大仏の傍まてりま

いろめく
[葉] 女色小付ていろ俗語へ〇私云色あめくハ辞
軍家小色めきあふとら

いそぐえ
梯岩崩

いしずえ
同礎 柱下石ん

いしのち
同鍾乳 註出備中國英賀郡

いもづき
同平題箭 註今之戲 又 勞 上の平題箭子係
射箭也

いそぎ
同功勳 いそぎとられといつさせあふへーサホの
約ソとられとサヲの約もツられハツクハよろ

いざよび
種猶豫 後十六夜の月より

いとあ
同倦 私云いとまの畧なりむ

いそひ
同晚鐘 貝

いさぐび
同漁火

いはこま
王琴柱れされ燃のりてまをい

いひがひ
種飯匙

いやちこ
梯灼然

いつし
種早晚 私云此ハ助字みてつらると傍敷ふまあし近世
の奇小あつて代ぬくよあまハ考之

いとむむ
梯營

いとほ
同勞 万いといりといり

いたづら
同徒 空ハ万ニ無用とよめり

いつをり

梯 偽 又 倭

いふころ

同 不審 以徳りと氣振より出○響ハハのせーと同
評のまゝとあるは辨々 ところ

いふせし

響 鬱悒 万ニ此字をいけるは杉のゆえに煙れをいふ
云と仰しく胸の悶てくゆる意あり俗にやゆつ

いざかひ

梯 誘 あくころをいふは 行まき
そく切くまきふいと云意あり

いよこの

同 森々 木長キ良

いそが

同 鬧 いそぐの例 働も同

いまめ

種 戒 源ニ紀よむことトヨム僧のへ

いすき

記 走驚良 傳ニ驚て立走るる良

いへど

梯 雖

いささか

響 磐境 磐倉とも云 神を祀る時 栗樹は境をさそく祀あり
木のなかり 齋栗樹

いざろき

源 宿敏 あつ目のさめていきまありぬをのさきとさ
俗にめさよれよまらぬとあり

いさかひ

梯 諍 イスロコトとらう口とラの釣サカとコ又うう

いそけて

紀 驚駭 又 喘息 源ニソクあきと同一くありとつふ
く、何うつきをわくやあり

いさか

大氣ありとをわくけ○種ニ 稚 いさけあり

いさか

梯 聊

いきほひ

同 勢 息 蹙

いそゆ

傳 所謂 古言を所謂とつ言へルと云ハ古云の格あり
さそ上あ云つたをさそ又世に云つたをさそ云ん

いろそふ

種 色添

いたかど

源 岩門 又関ノ 岩廉 あろろをありて別の和をり

いでま 万 行幸 このきさきさき天皇の外に出給ふを云

いりや 湖楽の舞子取て之より面白くまの事ものつ俊頼のち月

いくばく 万 幾許 又幾多

いずぐり 傳 勇細 中 鯨の枕詞 スミサと細ハ名くり香くり

いさかざら 美祿了細かり故うらとつそんあめふすけいひむ

いとしやの 傳 妹 いとしむ枕詞 いとしき子てあま

いそのかき 梯 石上 大和の○私まふとつそむ冠辞

いちさかき 田中道 千サカキと玄木よて多の枕詞 はあまよくしき実の多く

いちえや 梯 嚴捷 磨ノ説

いらつひ免 同 郎姫 家女つハ○又郎女 いらつめ

いやいこ 同 再從兄弟 從父兄弟の子

いぎすたま 同 窮鬼

いとき節 種 幼 梯ニツカハ一げあし

いらへかり 禁 幾許 いららざうらふ回クラの約カ

いぼむり 梯 螳螂 虫いひやむ

いさごまる 同 蚱蜢 虫

いそやがひ 同 文蛤 貝

いそつと 和 羊躑躅 木へ又ちつと

いらぐさ 梯 羊桃 草

うはを	うかろ	うから	うせ	うち	うー	うき	うけ	う杯	うひ
同 後天	同 髮髮	傳 親族	万 滅	記 擊 討 内	和 牛	傳 盞	同 泛子	和 畝	梯 初
又イマノヲウト	童の髪を垂るゝ又万ニ 童女			又討又内	獸ニ又 大人ノウレを釣めて又レも云々へん	玉盞又盞結おと○又 いひてさかつきのひん	釣別名ニ今按綱具○又 又有此名故別置之	田數ニ諸田廣一步長二百四十歩ヲ爲畝	
	舟ヲ男女をこよ りてもあうとあ					又又 又又	舟うけておと うかめの釣け		

うら	うら	うら	うら	うら	うら	うら	うら	うら	うら
種 恨	同 奪	同 憂	同 空	梯 産	同 兎	和 鶉	玉 鮫	同 項	うら
水中の恨	強て取	又愁	半天河をキノウツホノミツ	又生	獸ニ	鳥ニ	魚ニ今ハハハの魚れ名とあれども女ハ鶉の食とも妻 とあふ一神狹伯殿仲相居此鶉向の類乃亦小 かう史けひうり小まうふ玉藤みさうらひのいをもかこれ さうけうこれ鶉のうの魚と云々えう	頸ノ後ニ	
				マルの釣ム メルも同					

うきぎ

和 查

水中の浮木

うちぎ

同 袿

婦人の上衣

うちえ

梯 團扇

うづぎ

傳 四月

曆を用ひしハ推古の御代あり

うるぎ

和 漆

木汁、可以塗物也

うけら

万 木

草ニ和ニ木をケケラと云り
ウヲ通ヘハハね子ハあり

うばら

梯 荊

又 次

うほ

同 潮

海塩

うま

同 可美

又 何怜 旨

又干麻伊祢宇磨佐開かゝり
ハ味をりてて万つ足るも心小恨

うら

種 浦曲

うたぎ

同 怒る 貞

傳ニ怒るる多あり一とらう倍よりあり
通ひてきこぬ

うあけ

同 項掛

又 嬰

うけひ

梯 誓約

又 祈 又 呪咀

うけひハ言要ふかより
どうのうハあり方ハハソ

うたへ

同 訴

告上

うかむ

梯 浮

うみうかすうつみうつあると云

うたひ

同 歌

詠声ハ万ニ 唱

うかれ

万 所浮

或説ハらくれと同アクの釣ウと云

うき

同 娛

又 歡

響ニはうり金とハ活る者ハむうと云
むかふと云ハあり

うらけ

響 嬉

からす意あり
うらけのふや

うき

同 薄

うきありをうきひありらるるの処あり

うたげ **傳** 宴

うつり **種** 移 又万ニ 移徙

うるふ **同** 潤 うるふ

うづむ **同** 埋

うまひ **採** 碓氷 上野郡

うはせ **同** 表門 甲斐

うたひ **傳** 轉 源ニ菅家万葉ニ
別様とかせたり

うつ **万** 現 寤ニ私云今俗神々のさめをてぬを
いふも誤

うかひ **種** 鶉飼

うまさけ **響** 美酒 みづ 三輪と云く枕詞 大物主の神れうま
つる酒の酒を指て

うはあり **梯** 後妻

うるり **同** 羨

うらむ **史** 蕃息

うつあ **史** 無疑 無ニ云紀ニ 定 をうめり

うらあひ **梯** 台 又ト

うかがき **傳** 歌垣 耀哥云云カノ部ニハ哥かひまてカヒを切めてキと
うらあひハ奇をいふとれ文をうの名あり

うかぢら **同** 海原 原とらまて平らふ度
処をいふ野系は東也

うぐひす **採** 鶯 鳥 **同** 典馬 馬飼ニ又和ニ 圜人 養馬者也

うまかひ **同** 典馬 馬飼ニ又和ニ 圜人 養馬者也

うまさけ ことごとく其三輪を著し三徳を神あひともサハ
ゆるひを三つらたけけう万ニウマサケと云ハヨのこりあり

うまぐそ **和馬杞** 作田具一五 **馬齒**

うまいゆ **同馬覓** 草へ布地而生葉至細微

ういづひ **梯衽** 衣の前へ

うすらひ **同薄氷**

うやまび **同恭** 又敬

うつもへ **響全偏の義** うつは全剥全室ふとらうつ **源** ひとくのこ

うしかび **梯失**

うるほひ **同漚** 又潤

うづかび **種諾** うつのひた云兼諾の義とらうつ

うたご **源未必** 遊仙窟二うくよめり未決のこといふよりうつれもは例をある奇未はやの字なり又水上はうたご

はの出くをうとらうつこと〇響ニ空形の義泡の形ハ中空なりして
いそそてよめり奇多し まとらむ物され其ウタカタを泡は
枕何れもいひ又床ハ肘は消安き抱されハ
危き心も定めあつても記念ありよめり

うくね **頭轉寢** 俗ふこらびねと云

うちま **梯打延** 又万ニ **打經**

うつせ **万頭身** 後轉一々蟬の名とらうつ蟬ハもぬけ出さるの
るれハ其うけ空ちよりウツセミと云

うかが **傳窺** 又同

うそぎ **万嘯鳴** 真淵翁ハかごときせはと後まきより招風の義

うもふ **梯疑**

うらが **種慰** 響ニうれいさす意とら

うらぐ **同醉**

うごろめち
うたごころ
うごかそり
うかかぢ
うかかき
うけぞろ
うめたく
うらほのま
うひすそで

和 鼯鼠

恒在土中一行若見三光即死

和 歌袋

陸奥紙にて洞くつてのうらふちやくわいのけけくつて
あつらふちあきまも思ひつれまやばあ袋の奇を裏か
かくりのこつて又匡房の奇袋をあつちて製せしれつて記を見
ゆとつてつ或ハ負地の後りて他きてつらつて私かか車も因奉

種 集

祝詞よとふ多くら古言

傳 項を傾せしる負

響 響かき

是万四ノ摺
ウモアと物

源 人のうきそそむぬま

響 後目痛

氣をりく心は○遠頃うら後りアそぬ物おの
かつらりの語へ つらあはるかまを存あきふらり

葉 琉球を云

同 鶯袖

股縫せしる衣を云

うつふぞめ
うかのこほ
うむぎのふ
うつごころ
うけひふ
うらよすのふ
うけちのこ
うちまぢち
うひすのね

遠 全五倍子漆

ウツを紀ニ全剥とつて全よてまて五倍
子よて漆る麻の衣

和 稻菟

私云食物の神

同 海蛤

一名魁蛤

源 現心

又万ニ

移心 徙情

うつこふまふよう奇は
ようこつてつらへ

至まらちの現心我あうらひつてつらへつたれは○は二奇まそ
四まうち日たれまふられつてつらへつたれは○は二奇まそ

梯 石龍菊

草へ又大豆乃此介

紀 浦安國

和 保食神

保猶保持也宇氣者食之義也言是
保持食物之神也

湖 散米

私云此散米ハ神祭あもま禍のを拂ふとて古
うすす奉へ今の俗女も米をうらまきといふ

梯 恒山

木へ又久佐支乃梯

うゐのりき 同 雅樂寮 官名
 うたがき 同 刑部省 官名

工ノ部

え 江 兄枝復柄柯得荏吉善二字一訓可愛

えひ 梯 鯨 註編平魚又 鱒 註似鱧青長鼻骨者也

えび 同 鰕 註俗用海老二字

えだ 同 肢 手足又 枝 又 條柯幹 梢

えり 種 襟 衣の

えと 同 兄弟 十干をいふ

三

えぞ 梯 蝦夷 古言小見えのエミシの 勝徳カシム

えた 同 英太 加賀

えの 同 穎娃 薩摩郡

えち 同 愛智 近江郡又 依智 遠江

えり 種 擇 俗よりとつふ

え小 同 縁 私云字音まれとも近世分りよ

えとち 梯 阿伯 父の兄

えみ 同 蝦夷 エミシ○エヒスハミとびーとと通又 夷

えひら 和 蠶繭簿 一名笛○養蠶器施於其上令作蠶者也

えびら 種 箴 私云此字ヤナグヒとのこらう 小く種小出るゆゑのこ

おぶ	梯 白貝 <small>貝</small>
おかみ	記 靈籠 <small>風雨を司る神</small>
おほぢ	梯 祖父 <small>父の父</small>
おきか	万 老夫 <small>又</small> 翁
およか	梯 老女 <small>オノノミナノイラレ約ヨノ○去海ニ老ニオヨミハハレ オヨナニ云ハハチオナト云ハハチオヨナハ強ク云</small>
おのま	同 己 <small>己のとも云</small>
おとか	同 大人の畧
おほち	種 大路
おとほ	同 威
おたひ	同 穩 <small>おとやうとも云</small>

おぼろ	同 朧 <small>又朧ニ</small> 朦朧 <small>月色不明也</small>
おもて	梯 面 <small>おも共云又おも目共云</small> 表
および	万 指 <small>手足の指ニ○又和ニ由比</small> 及
おふ	梯 瘖啞 <small>註不言</small>
おとぎ	同 大臣 <small>後小大臣を称してつゝハ大殿の畧也一後子付て見安キ為小奉</small>
おりべ	同 織部 <small>官名</small>
おほめ	同 大炊 <small>官名又</small> 莞 <small>草ニ註可為席者也</small>
おえぎ	同 蒿 <small>万ニウハギと云ハ字ハ乎小髯也例ラキキを以テ</small>
おほし	種 多 <small>又</small> 大黃 <small>草</small>
おほ杯	梯 蘿菘 <small>大根又</small> 菜菔

おほひ

和 首宿

野菜に註莖葉根並寒者也

おどろ

同 晩稻

稻のおそくこのそへ

おふる

同 棘

藪へ葉ニ堀川百首小○春これと折人もかききききひの
いづうおとろまあらんとすらんうれはゆまもつふへきあや

おきび

同 生

草木のへ

おふび

同 熾

わきとも云

おほむ

和 條

糸繩○鷹の具え

おほむ

同 燐

鬼火の○註人及牛馬兵死者○評云おふの事二言
血所化也

おほむ

傳 襲

又万ニ 押日 襲へスツ通ふまゝ其まゝ一まゝおふれ
二幅おふれ幅のまゝはいと長く後の世れ

おほむ

種 姫

女のうき衣のやくひかかゆくより上をぬひ下ハ裾すくすく
るとそゆ上つ代は人は面をききくと隠せ料とええより襲覆の約

おほむ

梯 繆車

註繆糸取也

おほむ

同 輜

註車輪郭曲木也

おほむ

同 重

權衡をハカリのオモシ

おほむ

同 大御

大君の上小云

おほむ

万 憶

又 思 又 喪

おほむ

梯 覆

古ニオヘリとあり

おほむ

同 卸

和ニ卸鞍をクラオロシ

おほむ

同 凡

おほむその畧ニ
万ニ大と凡とがたり用

おほむ

同 劣

おほむ

同 遲

又 痴鈍

おがど	梯同	古言わやー共云
おくり	同贈	又送
おくる	同後	
おこし	同起	又興又發
おこせ	同遣	俗よこれ
おさへ	同押	
おそる	同恐	又懼
おびぬ	万懈	恐れ怖るん又愕然 おひやうんくも云
おぼる	梯溺	種より出たる云んを人乞をかりしと云
おごり	同奢	大ぼりの意あるべし○傳ニ大ごりの意と安ゆ ごりとも同一ホコル共云ハオホのオを省てオコルも同

およぐ	種泳	梯註水中を行ん
おらび	傳叫	大声を揚て哭叫ふん
おろ	梯愚	
おほえ	同覺	おほほゆより出
おふせ	同命	万ニオホセと書る処なり○私云念算より出 おとほと通り書る多し
おきて	同掟	行定
おたぎ	同愛宕	山城郡
おふち	同大内	讚岐郡 評云大内ハホウの約フをれハおふちと 一う大市播下備中のマホイの約上をフ又姓
おふみ	同邑美	因幡郡又石見
おほく	同邑久	備前郡

おほち	梯	邑知	石見郡又能登々
おさこ	同	忍坂	大和々
おきつ	同	息津	駿河々
おほぞら	種	大虚	万二 蒼天
おぢま	同	楹	
おほきこ	梯	大君	又万二 皇
おほみま	同	御體	
おほれど	同	曾祖母	祖父の母
おほをち	同	從祖父	祖父の兄弟
おぞをち	同	弟乎地	父の弟父の兄ハ延乎地と字鏡をひたり

おぞらと	同	弟	男子の後小生人又れと成
おほよめ	同	姪婦	長子の妻
おとよ免	同	娣婦	次子の妻
およづけ	同	老附	委れいの條小出
おとづれ	同	音信	消息をもよめり音子つれそふ義ありへ
おいらつ	種	老らう欵	大やうの意
おほどけ	同	大やうれ意	源ニ俗におとけさることおひとい狂言小か はるをいふハは勝せりや
おろそら	同	疎	
おほうみ	同	狼	獸
おとがひ	梯	額	

ねもかけ	梯	面影	葉ニ髣髴と其物をえんる意又相似る意をとる
ねもむく	同	赴	面向へ種ニおもむくことなり
ねもか	同	面向りき	字鏡ニ倣慶をオモカシと訓も同 ○同註悦へ奇
ねもゆる	同	阿容	顔面をも訓め於の假字疑あり 又種ニ阿諛とあり
ねもとり	種	鶴	
ねもやけ	同	公	葉ニ大官の義や官又司をえやけとあり
ねほじか	梯	麋	註似鹿而大者也
ね免む	同	蚬	和ニ塵虫
ねほたら	同	食菜萁	木
ねほえみ	同	黄精	草ニ猶えみの所ニ委

ねほむこ	同	車前	草
ねほぢち	同	茶	草ニ和ニオホヅキ
ねくさ	和	玄参	草
ねほびる	同	大蒜	草
ねほみら	同	薤	草
ねほたら	梯	澤瀉	水草ニ和ニナマキ
ねほせり	同	大芥	草ニ和ニ當歸をも訓
ねごのり	和	於期菜	海草
ねほが糸	同	洪鐘	
おもづら	梯	鞞頭	馬具

おほゆみ	和弩 戦具
かくつき	梯墓 万ニ奥擲
おほぞこ	同擲 葬具ニ註周棺者也
おびぞう	同鞞護 劔具
おびもの	同佩 ねぶ又ねむりの又おはせり云
おりもの	和綺 カムハタ註似錦ニ而薄
おほくび	同衽 衣の前れ襟
おひくけ	梯綏 又老繫 和ニ冠乃乎又保々須介
おほふへ	同苞苴 猶小への処子委一〇和ニ裏奥肉也
おほみき	同大御酒

おの	同各 巳々
おほめき	原虚惚 後拾遺存宮女御〇及の〇とおほめきん ゆく世の中ふろとんとる考なれもせぬ
おとあひ	梯喧響
おこあひ	同行
およつれ	万妖言 流言
おもほゆえ	同所思 又所念
おぞよか	梯嬋媛 註美麗貞
おこたり	同怠 行廢ちらん葉ニ病の火一愈るも心ちあせり
おどろき	同驚
おぎのり	同賒

おどろふ	搦 衰	劣と同語
おそはる	同 麗	
おしてる	同 押照難波といふ人冠辞	
おそくち	種 面持	葉心りうふと云う今云かはつきん
おもむろ	大平 翁説 從容	物まづつふゆくさくを云又葉徐
おほざう	種 普通	
おいらく	頭 老	らくハ辞まておつろの延うん ラクハルと約る
おしぬみ	梯 忍海	大和郡
おどらき	同 邑樂	上野郡
おいたみ	同 置賜	出羽郡

五

おほいた	同 大版	若狭郡又大分 豊後郡
おさかべ	同 刑部	伊勢又遠江又 忍壁 攝津マオレカベ と云ハ誤
おほさひ	同 大忍	土佐マ
おもひやる	源 遣悶	おもひむしめり思ひをかへ○又想像 やうもを云万ニ多くは皆毛 其事をさそふんとおしそつるやうの くろらこれハ万ニ首り外
おほきらみ	搦 眞渤	
おほだうら	同 人民	又ひとくさ
おほやまと	種 大和	國
おほくち	搦 曾祖	
おののち	湖 各等師	考やくそけふと云きん

おのづから

同 自然 梯ニ 自 杞ニ 繼ニ

おほおまひ

梯 柎 大脂ニ

おほけり

種 無負氣 服部中庸 大膽オホケ 奈久 母 といひ

おほく

響又源ニ大氣ヲくあへハハしきヲあけあけはくくあを
ちくくあくと云ふ同トといふヲあかあ原ヲなり

おほく

同 面白 又万ニ 何怜 喜色ニ轉ニて感賞の語トなり

おほく

万 鬱悒 此字を梯又種おほくトあトよトて心件
あクはシ意ヲあラふ心といふ

おほく

梯 護田鳥

おほく

同 蝗

おほく

同 駑馬

おほく

同 追儼 評云お小の事ハ二言ト委

おほく

玉 思草 万葉十ニ一首ヲあラふをかサて後多くトよシ事
とあらふ田中道磨ハ磨ノ中アらハてハおひぬ
そののあらふ草をおこせれもつりハ此おひぬハ
それヲやいくらん

おほく

梯 白頭公 草ニ公ハ翁ト○公ハ翁トといはれる本草
和名ハ白頭公トなり

おほく

和 虎掌 草ニ

おほく

同 糲 又比豆知○自生ト糲ニ

おほく

梯 几

おほく

同 豚 面柔ニ

おほく

同 喟然 紀ニ忿然作色ヲ訓

おほく

響 大率 謂辨官

おほく

響 大率 謂辨官

れふしあま	梯	凡海	丹後
ねどしいる	種	陷	
ねびたし	同	夥	
おのころどほ	梯	礮取盧嶋	傳ニ自らくろく島とあれた名ニ
おほかふち	同	凡河内	記ニ凡河内紀ニ大河内と云く氏ニ
おきふかそ	同	息長川	近江子に在
おひひころ	玉	慮	おひんころくとつひの音便ヲ類まてて
おそくつのお	同	春画の奉とやえり	
おひひくそ	梯	黥	面黒子ニ
おむかろら	同	苜蓿	草ニ評云おむかろら於のうふあれた女蔓 ふらりて姫蔓のよふかろら

おふのやから	同	續斷	草へそみとも云
おみお	種	大方紗	ころかとのきよ用たり
おほいひろ	歴朝詔 詞解ニ	正從	位階ニ天武十四年小定の給(り)位階小 毎階有大廣(の)大廣の訓を取て正從れ 訓とせられし(ら)おほきひろき(の)ふ(き)を共(い)つ(ひ) 後の考候われ今(は)あ(り)きふつきてひろきと訓(へ)
おほのあかひ	梯	大殿祭	
おほみこづけ	玉	重荷小附	後撰集年のあつまんとすあ(る)を(た) む(せ)い(く)こ(ろ)を(こ)る(も)そ(ん)を(む)
おほまつぎこ	万	大臣	又梯ニれはいまうちきみ
おもとひと まつぎこ	梯	侍從	官名ニ
れほきむだち のつぎ	同	正親司	

カノ部

か

蚊香日彼鹿歟

又蚊のちちふらふかをかんと
いふるもろくくくひてさ

ふあめぬむて感らう定家々のうくハ○是契冲説
そくあく漢とハかろ中云此外疑まくと並字のこく

かほ

梯顔

人の面を万ニ顔面をかほを

かい

同擢

舟の具又 刺 虫

かは

種河

又川 又皮

かへ

和拍

一名榲木又

榲子

木の子又

替

かび

種儼

又 蚊火

かひ

梯貝

海つ物又

蛟

虫又

峽

山の間又

匙

食器

又穎

縮の穂又

甲斐

國又

飼

鳥獸又

買

物と物
易

二

かぢ

同穀

木綿の木又

楫 舟の具又

鍛人

金作又古訓
カダシの釣子

かぢ

同數

かつ

玉和

かてとも活きて物を和合こくと万ニ醬酢よ蒸つき
合てとらる合あり

且

響ニからハか居氏ハオムてあるを云とつ中畧俗よりよつと
とよま似る言のハカツカカタオてお對つる物のけり片を

たといハ花ハカツチルと云付ハさける中よりちるもつと云又カツを
活して花えらるるも片ハ花をえ片ハ花をえとひん人の
まゝハカツカカテ通せられハカツを物の中からと云やうハ
らちちを二つは拵て片々と刻いし時ハ細くある

かて

万難

かての約まると得がてますと云

かえ

和哉

辞めてかかると云の又

鴨

鳥又

氈

毛席

かま

同鴻鴈

鳥註大日鴻又
小日鴻

獵

又

苳

草を又

假

かれ

万離

又枯

又

彼

かち	同歩又勝
から	同故 <small>言の上よりいれはかきとらひ〇又下みられはうしともゆき共云</small> 漢 <small>支那及三韓をいふ</small>
かく	同如此又如是
かき	和蠣 <small>貝ニ又</small> 垣墻 <small>又</small> 書 <small>又</small> 柿 <small>木ニ又</small> 攪
かせ	同石陰子 <small>是物生海中陰精故以名之</small>
かふ	同蟹 <small>八足ノ虫ニ</small>
かま	同蒲 <small>草名似蘭可以為席也〇又</small> 竈 <small>炊爨ノ處也又</small> 鎌
かさ	同暈 <small>暈氣繞日月〇又</small> 笠 <small>所以禦雨也〇又</small> 瘡
かた	同瀉 <small>又</small> 方 <small>私云吾妻かたは瀉小も方ふもたつは縣よてはと畧してうくと云ふと云</small>
かゑ	同兼 <small>辞ニ語つばいふと云ふと〇又</small> 金 <small>又</small> 鐘

かて	和糧 <small>行所ノ賣米也又儲食也</small>
がち	源多 <small>周易說卦云其於木也為堅多心</small>
かけ	万鷄 <small>庭鳥ニ又</small> 掛
かや	和萱 <small>草ニ</small>
かうべ	梯首
かはべ	同肌
かひか	同肱
かたを	同殘廢篤 <small>不具の人ニ片羽れ意</small>
かたわ	同乞兒
かゑを	傳姓 <small>又</small> 骨 <small>宿祿朝臣〇又</small> 尸 <small>死骸を云</small>

かひこ	梯卵	鳥の子ニ又	蠶	吐糸虫ニ養蚕と云コカヒス共云
かへる	同 歸	又 鶺鴒	註鷹鶺鴒ニ又	鶺鴒 卵化ニ
かはづ	同 蛙	虫ニうひるこころたひふ又	蝦蟇	
かつを	和 堅魚	魚ニ		
かきひ	同 王餘魚	魚ニ又	餉	乾飯ニうれひれ
からむ	同 烏	孝鳥ニ純黒而反哺者謂之烏		
かも丸	同 鷗	水鳥ニ万ニかまめと云あり		
かは	梯 榊	木ニ		
かひ	同 椽	木ニ		
かへで	同 雞頭樹	木ニ		

か小は	梯 樺	万ニ櫻皮又加波今ノ櫻皮云々		
かづら	同 葛	蔓草ニ又	髮	註髮少者所以被助其髮也 俗用髮字非也
かいな	同 黃草	漆草ニ註刈安草		
からえ	同 草麻	草ニ		
かはか	和 水苔	川菜又うらみくさ		
かまか	同 苦笑	一云かきおろし者		
かひみ	同 芫蘭	紀ニ以白蔽皮為舟とらうの又 俗ニカハ辛とも云	鏡	輝見の意 といへり
からし	同 芥	味辛鼻者也		
かとり	同 縑	註其絲細緻數兼於銷		
かきつ	万 垣内	うちらのウを界 つをち小通せり		

かすぼ 梯假廬 私云かうぼの灼

かすや 同廁 川屋

かもえ 同鴨柄 屋具

かすら 同瓦 又川原

かふへ 同鑊 熱食器の鼎なりうきへ釜まらつるへ

かふみ 傳各又互 又万ニ 形見又筐

かたま 記籠 堅問子作其義ゆへ無自詠ふとるるり

かひ 傳耀歌 才と男女よみたりていとく源三万第九登筑波
りそよんかふ共云宮怪子内一嶺為耀哥會日作歌
他妻尔吾毛交三午吾妻尔他毛言問此山乎牛掃神之
遊来不禁行事云々

かむち 同釀 酒を造るを云かひとて作
意みくカミ又カムとも

かぎ 和挿頭 葉康保三年三月花宴藤伊尹奉勅折花挿玉卿
頭とんゆ

かはる 梯替又更 又交 かへふる共云

かづき 同潜 水中を行評云そりの被物を
うづくそハ物

かきる 種薰 香氣

かき 同乾 又燥

かざり 万飾 又装束

かぞふ 梯數

かよひ 同通 又万ニ 往來

かふひ 同叶

かふへ 同傍 片方

かのえ	梯	庚	十幹の一金凡
かけり	種	翔	鳥まどりの
かくげ	同	掲	撥拳の畧
かほぢ	源	託	白氏文集「かろ」とあり事とよせしつゝ「かろ」 堀川院の御時百首まじりし詞に「かろ」中納言國信 海山へのあはれて「かろ」とふか「かろ」がまき玉柏うれ首かえ うら「かろ」たどたりか「かろ」ことか「かろ」同「かろ」か「かろ」け「かろ」まき 「かろ」今「かろ」の俗事「かろ」か「かろ」君「かろ」を「かろ」か「かろ」つゝ 「かろ」續紀「かろ」い「かろ」ひと「かろ」も「かろ」同義「かろ」へ
かまけ	史	感	「かろ」今「かろ」の俗事「かろ」か「かろ」君「かろ」を「かろ」か「かろ」つゝ 「かろ」ち「かろ」つゝ「かろ」
かまめ	同	掠	「かろ」續紀「かろ」い「かろ」ひと「かろ」も「かろ」同義「かろ」へ
かつて	万	都	契沖云都ハまへてと云ふみて紀「かろ」と訓「かろ」世「かろ」ひと 「かろ」まき「かろ」れと云を「かろ」あつ「かろ」ふん「かろ」まき「かろ」れと云「かろ」つゝ「かろ」まき「かろ」つゝ 「かろ」つゝ「かろ」つゝ「かろ」つゝ「かろ」つゝ
かひて	同	豫	将来をさうして「かろ」まき

かたご	同	春日	大和此字傳「かろ」日の「かろ」むと云つ「かろ」け「かろ」つゝ「かろ」つゝ 枕詞の「かろ」日「かろ」て「かろ」字「かろ」を「かろ」や「かろ」く「かろ」地名「かろ」用「かろ」つゝ
かてら	遠	兼	「かろ」を「かろ」約「かろ」め「かろ」つゝ「かろ」つゝ「かろ」つゝ「かろ」つゝ 「かろ」て「かろ」別
かーけ	兼	憔悴	紀「かろ」よ「かろ」め
かーマ	同	呪詛	
かーき	同	標	北國雪「かろ」き「かろ」時「かろ」足「かろ」付「かろ」る物
かぶ免	同	香	「かろ」ぐ「かろ」め「かろ」と「かろ」云「かろ」つゝ
かふち	梯	河内	國又々
かえ日	同	河曲	伊勢郡
かまふ	同	蒲生	近江郡
かきへ	同	高家	飛騨

かほどり	かほむし	かほり	かぢどり	かみおつ	かむかぎ	かまこや	かみろぎ	かゝひ
同	同	和	同	梯	和	同	万	梯
容鳥	烏毛虫	蝙蝠	檄師	霹靂	巫覡	行宮	皇祖神	香推
又貌鳥	虫	虫類		雷の落るんかまどけともふ	祝女也覡男祝也		又まゐろぎを註皇統の神を申しまゝ 茶の行代をもまゝ	筑前

かほどり	かほむし	かほり	かぢどり	かみおつ	かむかぎ	かまこや	かみろぎ	かゝひ	かまづら	かはぶめ	からろこ	かさぎ
同	同	和	同	梯	和	同	万	梯	同	同	同	同
杏子	枳椇	冬瓜	骨蓬	筍	蜻蛉	鱒	鰯魚	鵲	鱒	鱒	鰯魚	鵲
	似橘而屈曲者也	味并寒無毒止渴除熱	水草	常小皮有竹 河竹ハ借字	虫又 又火影又朝夕 の日氣又遊糸 かつまも後ふ	小魚	似鰯魚而頰著鉤者也	鳥				

かうぢり	梯冠
かむぎ	和簪 挿冠釘也
からきぬ	同背子 婦人表衣以錦爲之領中婦人項上鍔也
かえらけ	梯土器 瓦筒
かままり	和金椀 椀即盃字
かせづゑ	同鹿杖 杖又 横首杖
からざせ	同連枷 打穀具
からすき	同犁 墾田器也
かけち	同梯 木塔所以登高也
かいまみ	種垣間見

かやまか	同白花
かよこ	同弱
かぐは	梯馨 香濃之常云かぐは
かくさふ	同隠 サフの竹スそかくれ
かひろく	同妙 註舟不安
かづづき	種傳
かいそで	同普通
かきらぬ	梯必 假令あらん又一説小坂あらんといふ
からちろ	玉韓藍 吳藍同事未摘花とあ松よりぬり花
かこらう	種潔

かたらひ 私云かたうちひの約

かたをら 梯傍

かうごうへ 同考 かむごうの考便へ

かぐおく 響カ、鳴鶴 持カ、吞おと云カ、と同言あて俗ふかやくと 喧く多くの人おまよふをいふ

かぐしん 同堅般石

かふづろ 琴奏 琴をこかきあつた義かろへ

かそけき 同幽なるを云

かきふ 梯悲 いかふふとよひの字書ニ哀の隣と註せらるる よういふをさてうあせると悲哀のこほりたる

かぎよふ 乘赫 万ニかくるも片心よるをいふを云

かたまち 同片待 万ニかくるも片心よるをいふを云

かふき 万傾又斜

かへで 傳膳夫

かへべ 同日々並 計ゆる言ニ三日と日数を並へかへつを云 後ニ美の字を當り

かぶつく 同頭衝 熾は日影はれぬ隙をつく如くあるを云

かむほぎ 同神壽 神さうをいふ神をホギ八千年ほぐと云ふと 多くつりさてホギを延てホカヒともいふ

かづ 万且々 二言かづの條にいへり

かまごひ 梯録 門戸ノ具へ

かづらき 同葛城 大和郡

かひうや 和挂萱 上野々

かさむろ 同笠居 讃岐々

かむうぎの	傳	神風之ふて伊勢の枕詞
かりこもの	同	苜蓿之ふて乱の枕詞
かものうみ	梯	河伯 川の神
かとおほぢ	種	高祖父
かはひらご	同	蝶 又 蛺 飛虫
かよつぶり	和	蝸牛 又 蝓 虫
かつむむ	同	蠛蠓 <small>まぐさき共云註小虫ノ乱飛也</small>
かはやさき	同	水揚 木
かえねぐさ	同	女青 草
かきつた	万	燕子花 草 又 杜若

かくとをかこ	梯	涵乎無 <small>片男浪</small>
かこころも	同	裘 皮衣
かこかづき	万	十月
かぶらさう	梯	鈿 <small>曲刀ノ鑿</small>
かへりみる	同	顧
かづらふ	種	拘
かいひそむ	同	潜
かほかくふ	万	左右 <small>又云云 <small>かやもこやも又うまこま又こりもかくも</small></small>
かむえかり	傳	神議
かこづふさ	梯	上總 國

かしまたち 乗 首途

かまねむむ 玉 髪の形 いまの女は髪子後とた右へちり出さるる処を

源順集にすれしむおのりかゆるか胡多御一里ふの神さるのすま
金家志二胡多髪たうす枕すあまつりてたさいりてふまやうさるる
あしあへの枕はらうさるるあまのつらう出さるる所のか
今のこことさうまはるる

かまけふ 梯 忝 又辱 乘 紀 歡愧をよより俗はりのいかにと云

かすまぢう 同 賽 報祭又復奏まると云乘二年中行支哥合月次祭ニ
友のこれ年のせうふ月毎れうまをこれ神のこころ

かぢらさのき 同 賣子木 木

かぢらよのぎ 和 菊 草ニ又 白蒿 草ニの本草和名ニ白蒿の訓ハ
同菊ハカハラオハキとらう

かほろがて 同 吳茱萸 困

からんぶき 同 射干 草ニ一名 烏扇

かゆちぐさ 同 三白草 葉上有三黒點古人秘之隱黒爲白耳

かのふけぐさ 同 人參 一名クマノ伊

かぢちのたち 紀 頭槌劔

かぢこふのぢ 乘 昇霞 天皇崩御を云

かぢびくぢ 同 内大臣を云 三台とく三公を星子准ふより云とぐ

キノ部

き 木樹材來酒城著葱黄衣

きた 和 北 方角

きど 探 雉 鳥へえとキッシ又キッス

六

七

二

きざ	和 蚌 <small>貝ノ蚌ノ屬。狀如蛤圓而厚。又象 <small>大獸ノきざと濁</small></small>
きり	同 錐 <small>又桐木ノ又霧務 又切</small>
きぬ	同 絹 <small>又衣</small>
きく	種 聞 <small>又菊 <small>草ノりく音より出つらん然きとと哥ノ詮</small></small>
きむ	万 疵 <small>又瑕</small>
きえ	梯 消
きは	同 際
きー	和 岸 <small>又涯 <small>註水辺日涯消而高日岸</small></small>
きま	同 肝
きたた	同 黄蘗 <small>木ノ</small>

きら	同 雲母 <small>五色具ノ謂之雲華。○本草和名。雲母ハ星精又云日精也</small>
きづか	同 攀 <small>又練 <small>兩訓ニ在鷹アレヲ在大キヅナ</small></small>
きたひ	梯 針 <small>鉄をきくふノ又 <small>腊 乾肉ノ</small></small>
きくぎ	和 栓 <small>木釘ノ</small>
きのふ	万 昨 <small>日</small>
きはむ	同 極 <small>又究</small>
きらび	種 霧相 <small>又嫌</small>
きはひ	梯 競 <small>又カニ <small>諍 <small>きくふきくふ</small></small></small>
きがみ	万 牙喫 <small>怒まる形ノ</small>
きづく	種 築

きざむ	種 刻
きこえ	梯 所聞
きのえ	同 甲 <small>十幹の一木此凡へ</small>
きさげ	傳 研 <small>レ</small> 削 <small>ル</small>
きころ	方 樵夫 又 木折
きざう	種 萌 又 兆
きつ糸	和 狐 <small>獸へ狐能爲妖怪至百歳化爲女也</small>
きよ <small>く</small>	万 不穢 又 清 又 淨
きむ <small>い</small>	種 黃 <small>もむハ辞</small>
き <small>く</small>	同 車音

四

きぬた	梯 砧 又 礎 <small>キヌイタ○擣衣石也</small>
きよむ <small>ば</small>	和 胡黎 <small>虫へ註蜻蛉小而黃也</small>
きり <small>く</small> ひ	梯 杠 <small>伐杭へ</small>
きり <small>く</small> ぎ	和 鏝 <small>無盖釘也</small>
きばち <small>ん</small>	同 薺 <small>地蓮花朝生夕落者也</small>
きのみ	同 蕒 <small>木耳即木菌也狀似入耳而黑色</small>
きさら <small>ん</small>	無 二月 <small>氣更<small>ニ</small>來<small>ル</small>の儀陽氣發達<small>ス</small>時也</small>
きたむ <small>る</small>	種 伐 又 討
きた <small>か</small> く <small>き</small>	同 穢
きの <small>く</small> ふ	万 紀伊國 <small>もと木ノ國へ</small>

くじか	和烏芋 又 慈姑 水草
くぬぎ	万歴木 又和 釣樟 木
くさぎ	和蜀漆 木
くま	同鑿 治病工 又万 奇
くづつ	同傀儡子 樂人之所弄也
くびき	同踵 足の後へ俗きびきと云
くぼて	同葉椀 宴會飲器
くつじ	種轡 馬の具 へくつじづら共云
くろみ	和胡桃 木
くさり	同鑠 又 儻 以金爲小環 往々纏搯者也

くびき	同軛 所以扼牛領也
くさび	同轄 軸端 錢也
くま	同藥
くぼさ	史利益
くは	梯委 又 細 其物をむす辞
くらか	種位 私云其齒小正しく居るはひのむ
くづる	同崩 又 頽
くくり	万縛 又 括
くま	同曇 又 陰
くじ	梯 觶 註解結者

くひせ	梯拙	木頭和ニ株を訓○木根ハ生戸根土上曰株又短柱
くろび	同狂	
くどく	同歛	註屈也断也又該を訓○折曲也
くらひ	同喰	又喫又咋
くろ	万辛苦	
くさ	同令腐	
くだら	傳百濟	三韓の一
くだち	万更降	又種ニ降
くだき	種碎	
くぼ	傳下田	窪ニ早き田

四

くらび	種競	
くーび	記奇靈	
くはふ	梯加	言のまを口又ハカラスあり
くるへ	同訓覇	伊勢朝明郡
くさか	傳日下	河内ふらう又姓ふもらう此文字長谷三枝の類也詳コ あらハ暗坂の意也日下まハ坂々々きまめて書る
くえびこ	同久延昆古	山田のそほど共云今野ふらるかぐ一此則神 名義雨風ふらつる傷をれらる心也
くらうど	梯藏人	稀人をマラウドと云々如
くへめ	万麗妹	又妙女
くまか	和角鷹	角者毛角之義欵
くちぢ	同嘴	鳥喙也

くちあひ	和 蛇 <small>虫</small>
くろだひ	同 鳧魚 <small>魚</small>
くぐかけ	響 腐鶏 <small>クナタブレと作クナもナタ〇又哥文要語二百濟鶏通ふカタクナも同一の畧字云とらま</small>
くほのい	梯 熊膽 <small>又人參 藥艸又カノニゲクサ</small>
くちあひ	和 梔子 <small>木實可添黄色者</small>
くぐだち	同 薑 <small>俗用薑立二字</small>
くさびら	乖 菌 <small>又茸 タケ又キノコ、和菜蔬をよめり草故の義あるへ今菌茸をいハ誤とふへり猶考へ</small>
くさむら	叢 <small>私云草群あふへ</small>
くかだち	紀 盟神探湯 <small>此字の考あふへ一傳ニふちハ役あふへくちあて其小立某立共云事今しらる</small>
くろぐき	和 反轉 <small>蠶糸具へ又訓覓 安藝</small>

(五)

くいたつ	種 企
くづをる	同 頰折
くちあひ	同 遺憾
くぬらひ	同 薰
くれふか	同 紅 <small>赤色ハ冥の藍のアをナと約</small>
くろまの	同 栗栖野 <small>大和</small>
くまのき	和 楠 <small>木ニクス共註此木生而七年始知矣</small>
くふつこ	方 地祇 <small>國ツ神</small>
くれいとり	傳 兵服 <small>くれまをちりの約</small>
くさかき	梯 野猪 <small>獸</small>

くれのおも	梯	興藻	葑類評云懐香をよめるハ不用
くまつら	和	馬鞭草	蔓草
くさつをせ	同	鬪草	註五月五日鬪百草之戲
くさつあひ	同	饅	母子草餅
くだのあえ	同	小角	征戦具
くだらごと	同	笠篋	百濟國の琴
くつごる	梯	巖	又覆
くりかへ	万	絡反	
くさひどが	和	菊靈	祭祀具
くれめが	同	薑	

けふ	万	今日	
け	ケノ部	毛筭	
		食異殊	
		饌氣	傳ニ字音小似テ字音
くわがうし	梯	蛸螿	虫
くぶちのたち	傳	頭槌	劔
くさぎのち	記	草薙	劔
く急はら	同	楚散	

あられたま、○又遠頭ニタサレハ虫ナリ。けははせハ万ニ勝異
 考の同、き、殊、の字を書テ殊、はま、う、る、を、と、ハ、又
 助小異、小、ハ、助、と、同、ハ、氣、長、ク、カ、リ、カ、ル、カ、ル、ハ、又、日、茂
 助、も、ハ、助、も、その、カ、と、同、ハ、と、傳、ニ、リ、

三

けさ	けら	けた	けち	けち	けひ	けひ	けづり	けぢめ	けづれ
〔万〕今朝 又 今且	〔和〕螻蛄 虫一名碩鼠	〔同〕拵 註屋拵也	〔種〕消 けはけけんとも云	〔傳〕銷鑠 私云かねちくつをいふと云ふ	〔梯〕筥飯 越前	〔同〕煙 又 烟 火氣	〔種〕削 又 梳 梯髪をけつる	〔同〕差 栗一異路目の意とつう差別を云	〔同〕汚穢

四

けりの	けだ	けぢめ	けぢた	けぢた	けぢた	けぢた	けぢた	けぢた	けぢた
〔和〕獸 四足而毛謂之獸	〔万〕蓋 疑の辞	〔梯〕氣 ぞひハ辞	〔同〕燐 烟痛	〔和〕玄畜 六畜牛馬羊大雞豕也	〔種〕氣疎	〔同〕氣清	〔和〕靴	〔頭〕今の作り花	〔種〕氣色 ちむハ辞私云けきこふ云古哥小られもあきハ考ふれハ心まへ

五

コノ部

木樹兒子此是來籠粉二字訓海鼠

和輦車無輪也又腰身中也又越北越前より下

同泥鎧塗玉具也又籠手

同薦席也又石菘水葵也又菰一名蔣茨草

梯鯉魚也又戀人を慕ふ乞物を求む又又疝足病

万駒子馬也あられが哥ふらひ又又高麗國三韓の一

種聲

梯越山を又肥身肉多

源社辭此字をこそとてむらこそハ心乞の字をこそとてむらこそハ彼社宜らるる多うて平願をふ神のまゝにあらは社とい名付

こち同東風こちのぢふ風のこといられと○私云三上ノ註ハ

こせ傳琴又事言又殊異

ごせ万如又每

こび傳媚大雅屈己卑身而附也字音うととくと猶古言あへ

こゝ万此處

こわ種木居鷹の

ことひ採特牛大牛

ことゑ同梢木末

こほ杯同温菘菜類

このみ和菓有核曰菓無核曰菓又好



こころ	和 菲	菜惣名也食之除病
こぬき	万 木末	ノウの杓
ことぢ	梯 箏柱	
こが糸	和 金	又 銑 金之最有光澤也
こよこ	同 曆	黄帝造曆
こしき	同 甑	炊飯器也
こまづ	同 白飲	濃漿之名
ころも	万 衣	又 服
こまぎ	頭 木菰	莖立枯すて春其莖より枝をさげらるるを云ふ 但本註ハ小菰と云ふ
こぼり	梯 氷	又 郡

こほし	同 強	
こよひ	同 今夜	
こさめ	和 霖霖	小雨
こむら	同 腓	脚腓也又 楸 木村
こたへ	種 答	
こてふ	同 胡蝶	字音あれども今ハ今ハ和訓をいふ
こらふ	同 恹	
こやし	記 伏	又 卧
こもり	万 隠	又 籠
こがれ	同 焦	

こくた	万 幾許 <small>こくへく共</small>
こひぢ	種 寒 <small>又凍</small>
こぞり	同 泥 <small>いちも云云吹ふよせて奇まよめり</small>
こらひ	同 擧 <small>又合の字もよむ物もこぞり集るふと云</small>
ころけ	同 殺
こぞりと	梯 夫の兄弟 <small>夫の姉妹にこぞりとめ</small>
このみ	和 兄 <small>子の長へ男子ノ先生ヲ為兄</small>
ころぞえ	万 所噴 <small>大声ヲ罵りさけりて母尔所噴とらり</small>
こおよび	和 季指 <small>小指第五ノ指也</small>

こまぶえ	同 籥 <small>高麗笛ノ除改外而六孔之笛也</small>
ことのを	梯 絃 <small>私云琴の緒也</small>
こはつひ	同 強飯
こほろぎ	同 蜻蛉 <small>又蟋蟀</small> <small>虫ノ評云万ニ蟋蟀之鳴とらるる皆</small>
こがし	万 悉 <small>又皆悉</small>
こちたぎ	同 言痛 <small>トイの物チノ源ニ云一カニ人事乎終三毛ノ髪</small>
ことごと	梯 理 <small>又義</small>
ころむひ	同 頃 <small>頃へほひの辞</small>

和名抄以下蟋蟀をきりてと。○春海云コホコキヤノス比皆よむハ誤私云きりてその條は存ス 蟋蟀の事

の人の事あてかり人の髪は多くてむつうきさを事あけむつうきまよとて義をりてけり

五

このぶろ	梯	頃者	又	比來
ことむけ	傳	言向	言ハ借字ヤテ事ハムケハムカセ少クカセハケと約 背ク者ト此方へ令向の意	
こののへ	種	九重	私云禁裡と云	
このらへ	同	誘	紀ニ招慰と云	
このりずま	頭	不懲	このりずまひ中てありと云ふハすまひと云ふ又 もすまひてと云ふハ角が同一	
こぎた	万	榜多美	こぎたもいと	
ことむげ	傳	諺	神の心ゆく世人は言ハせし言ハことと云ふ條一語ハ 云ハし物ハくハし物ハ何と云ハせるハ偏ク云ハ物ハ云	
このりこの	記	言語	万ニことこのりぬる事ありと云ふ	
このゆら	傳	隱國之ふて長谷の枕詞		
	冠	蔣枕高の冠辞		

六

このろもがへ	種	更衣	
このりづら	梯	欵	又ちとあき
このろむへ	同	意	とへハ下延の類
このいまるの	万	展轉	又
このろふと	和	大凝菜	又このもハ俗用心太二字海菜也
このとから	源	異者	俗ハちがつ何とせんとなちつと似たり
このむらがり	梯	足病	又からと云ふ
このめでか	同	兒手拍	本ニ私云此木葉ハ無表裏故ニ二面と云 けしと云ふ
このろがらひ	源	有意	又
		省意	紀ニあり

サノ部

狭早令猿然小

梯澤 水草交曰澤又 夕

同 檣 又 掉 又 竿 舟の具

同 互 又 寒

同 副 辞にて実を花と又 塞 さへたさう

万 清 又和 劔鞘 刀の室

同 放 うつけんれんれん又和 酒 又 鮭 魚

同 咲 又 開 又 笑 皆花の又 前 又 崎 又 福 又 裂

同 小竹 又 篠

万 閉 又 刺 戸を又 指 物を又 螫 蜂蠆行毒也

和 坂 地險也又 冠 鳥の又 逆

同 鮫 魚又 醒 又 覺 又

同 鷺 鳥

同 猿 獸又 去

同 纒 註如網箕形狹後廣前也

同 核 子中之骨也桃李之類皆有核

種 才の音

源 性 紀ニあり悪をさかあり又

記 假 廢 後世ハさんしきと云

さびえ

同 榮螺子 貝

さひぢ

同 劍 魚

さびき

和 鶉 小鳥

さそり

同 蠟 似蜂而細腰者也

さかき

響 榮樹 又万 賢木 又 柙 今俗常小用

さまじ

和 麥李 木 麥 秀時熟故以名

ざくろ

同 石榴 木

さねえ

梯 盃類 註器似耳屈木爲之

さらひ

同 櫂 農具 又 俊

さつり

同 障 又 月水 女の

さびき

同 騷 又万 驟

さかな

和 肴 凡非穀而食之謂之肴私云酒魚菜の謂なり

さづけ

梯 授

さかえ

同 榮 さかえ共云サカフと云ハ得ん

さかひ

同 境 坂合 又 逆

さかり

万 離 又 疎 又 盛 又 熾

さび

同 不怜 又 不樂 又 寂 私云今多く淋字をかけたる

さつき

同 五月

さくげ

同 捧 指上の約

さつを

同 獵男

さくへ	種	支
さくえんご	同	小枝
さくそひ	梯	誘
さくやぐ	傳	聞喧擾之響
さくらふ	同	更
さくは	同	沙庭
さきく	万	幸又福
さへき	梯	佐伯
さうま	同	相馬
さどい	種	喻

種

同

梯

傳

同

同

万

梯

同

種

紀ニサヤケリとよめり物のまろのかましく

さくえんご

さくそひ

さくやぐ

さくらふ

さくは

さきく

さへき

さうま

さどい

令悟の意へ又

聰

目聰か之但これかきく

四

さらし	同	曝
さが	同	嶮
さへぐ	同	囂
さけぶ	同	叫
さらだ	王	然在者
さとり	傳	智
さねさ	同	相摸の枕詞
さほびめ	同	沙本昆賣命

同 曝 布又物を日小

同 嶮

同 囂

同 叫

王 然在者 人の別く時小きくはとつ云後撰集別の於伊勢

傳 智

同 相摸の枕詞

同 沙本昆賣命 御兄は同一地の名大和添上郡之後の

此方の系此頃云出づるのゆへに左田の奈良より西なる三田

さざりか	梯 牡鹿 <small>獸</small>
さひづら	同 轉 <small>鳥の鳴</small>
さはやけ	同 黄菜 <small>菜類</small>
ささくさ	万 三枝 <small>氏又加賀飛騨の傳ニ冠辞考小らるるこゝ</small>
さむらび	同 侍 <small>又 候</small>
さひつゑ	和 罽 <small>鋤蜀</small>
さいづち	同 終揆 <small>工器具</small>
さまよび	梯 呻吟 <small>又万ニ 吟</small>
さほらひ	同 伶征 <small>又紀ニ 流離 又種ニ 流落</small>
さたりり	和 防人 <small>軍防令ニ兵士守邊者名防人</small>

さやけき	万 亮 <small>又 明</small>
さねまへ	梯 幸 <small>又 福 ちまひ又さち共</small>
さへぎる	同 遮 <small>障切</small>
さかづさ	万 酒杯 <small>又 盃 又 盞 酒器</small>
さか	同 賢良 <small>良の字ハ假名小〇又葉ニ 源語梯 俗小カ</small>
さまざざ	種 妨 <small>賢良もかけれかゝると〇 源語梯 俗小カ</small>
さくしり	同 邪曲
さめ	同 清々 <small>木の葉れささるる意</small>
さくやく	同 私語

さらがふ	種 弱衰
さくしん	響 指渡 <small>さくしんを省くと西より東と云うは其処へ指</small>
さとをさ	万 里長
さくかべ	和 鉞子
さいかむ	種 罪 <small>又梯 訕 本さきあむの音便少といふさきいへ</small>
さいたま	梯 碕玉 <small>武藏郡</small>
さくしん	傳 裂釦 <small>五十鈴の枕詞 釦ハ鈴の一種といふさきいへ</small>
さぬつどろ	同 野鳥 <small>ひて雉の枕詞 野鳥は通ふきくしん野鳥は住物也</small>
さくしん	冠 曉の冠辞 <small>サハマは通ふきくしん野鳥は住物也</small>
さくしん	同 君 <small>とほくく冠辞</small>

五

さくしん	傳 幸魂 <small>和魂のはくしんを云</small>
さくしん	梯 道祖 <small>道神ハ此道祖を歷朝詔詞解小フナドといひへく和名抄ハ岐と道祖と別小奉てさせれは岐神</small>
さくしん	同 如五月蠅 <small>冠辞 地名ありむの孝徳記ハ鮒魚戸直といふ所</small>
さくしん	同 松蘿 <small>苔類</small>
さくしん	同 五味 <small>蔓類</small>
さくしん	和 細石 <small>水中細石</small>
さらぬふ	種 然不在 <small>てもん</small>
さくしん	万 小浪
さくしん	同 酣醉

さふつらふ	〔万〕佐丹頰相 <small>佐ハ発語丹頰相ハ丹著の意トテ紅ク 色をいふ</small>
さぶら	〔種〕寂莫の素
さやづきごろう	〔和〕羈騫 鳥
さいちらふき	〔同〕澤闌 <small>草んちりまくさ共云</small>
さくらえとこ	〔梯〕月
さひゆのこ	〔傳〕鰐 魚

シノ部

志一 爲己磯知不濁二字羊蹄

志ひ 〔梯〕椎 木又 強 春海天志ひてハヨク志ひるト云ヘリ

志ほ	〔同〕潮 又汐 海水又 鹽 煮潮作
志のぬ	〔傳〕細竹 <small>葦小も薄小をへて幹をいへり名義ハナク不 靡ふよし志ひるハ古ハ志ぬト云リ</small>
志の	〔和〕鹿 獸也共云又 然 辞
志び	〔記〕鮪 魚
志み	〔和〕衣魚 衣書中自生虫也又 染
志免	〔万〕標 <small>木を立てて人を禁むる也○又 又先子行人の志る人の物也</small> 注連 繩
志ぐ	〔同〕繁 又重
志ぢ	〔梯〕榻 車具
志づ	〔同〕倭文 <small>古の文布ハ志づる○又 又志ぢ又志ぢ</small> 賤 下つ子の畧
志こ	〔傳〕鬼 又醜

志日	和 皴 <small>皮細起也</small>
志色	史 痴 <small>又 令知 人子志れつゝかると</small>
志く	記 敷 <small>又 及 又 如</small>
志る	同 領 <small>又 知 又 汁</small>
志で	傳 垂 <small>志れを釣めると云</small>
志ぢ	万 數 <small>又 柴 又 芝</small>
志べ	和 葉 <small>花心也</small>
志ふぢ	梯 前夫 <small>まといれとこ共云</small>
志ふぢ	同 舅 <small>夫の父也</small>
志るぢ	同 鮎 <small>魚也</small>

志ぐみ	同 蜺 <small>小キ貝也</small>
志もど	万 楚樹 <small>又 竺口</small>
志きみ	和 檳 <small>香木也又 莽草 可以毒魚者也又 闕 門限也</small>
志とみ	同 竹部 <small>覆暖障光者也</small>
志る	万 驗 <small>又 表瑞 又 記 又 灼</small>
志づえ	同 下枝
志をる	梯 菜 <small>草木の凋ん契冲云志かえんも同いそへうと字 少くおもふと云へと書いしより</small>
志みづ	同 清水 <small>まろく水んスミの釣しん</small>
志ほで	種 鞍 <small>馬ノ具也</small>
志のぎ	同 凌

志め ^ほ	種示
志むり	玉棊 六指山の歌に奇小○志むりしてゆく節おもむひつ 山つらうまふらと志むり甘え志むりよふまの これよんえさかやちめあむ あふやうらうのおほえをむ
志こづ	梯諧 誤ん
志望へ	同後 私云尻方うん
志を以	同十二月 年極の畧略之後は脚走と書て義を云は候
志 ^ま	万須吏 又片時
志ぞく ^き	種退 又泥退とも云
志む ^き	同踏 わくあうかき
志づり	響滴降の義あふへ 草木の上は積りたる雪の解 くふあうて水つきあうら枝葉の

志ぶ ^き	種風吹 又舞ニ新古今集の○言ぬ川あふくちうふ とてうらうのあうれてくく大わうもく
志ら ^き	傳新羅 三韓の一 字音を用うるあふへ
志み ^く	万茂 又繁 又あうとも云
志 ^き	和鴉 鳥ん
志 ^い	梯慕
志ぐれ	和霰雨 又時雨
志ら ^い	万白髮
志ら ^い	同不知
志の ^い	傳忍 又悔 シヌブと云ふをシノブと 云ハ奈良の末うの 此忍と云言小戀忍

わうらう漏るうてあうをいふ

又堪忍 俗に堪忍と云ふ 隱忍と三つの意なり 万葉集に
いと多くたうて余のちぬふ二つふまれん古く集りて
の奇文ふそ多り

ちぢむ 梯 縮 又 蟠

ちづけり 同 靜

ちづく 同 滴 又 沈 む

ちむる 種 領 又 締 又 染

ちかひ 同 所垂 又 靡 万葉集に
契沖説くふさう終考へ西へ

ちきる 同 頻

ちぼる 同 絞

ちるべ 紀 導者 又 菅家万葉 二 指南

ちかぬ 傳 信濃 國へ級坂多き山岳の名あり

ちむ 種 菜苑の音 古今小物の名より
本草和名小和名の

ちざは 和 穴粟 播ナ郡

ちうとめ 同 姑 夫の母

ちひかせ 梯 糍 註有皮而無米也

ちへあき 同 欬嗽 又 咳

ちてい 万 小螺 貝

ちらふ 同 真珠 又 白珠

ちのぬ 同 東雲 又 横雲 万葉集に
暁の雲に細やうふはを條の芽より

ちきま 紀 重播種子 種をかくるまうて
まうてかくるまうて

あづくら	万	下鞍
あまびと	同	愚人
あはさか	梯	潮騒 <small>ワキの釣キ</small>
あれたへ	同	白拵 <small>又</small> 白細布 <small>又</small> 白妙 <small>妙ハ借字</small>
あごうふ	種	隨順
あきえ	梯	敷拵 <small>あくら夜の物は冠らむ</small>
あしく	万	重々 <small>又</small> 数々
あごりえ	種	下萌
あごれ	同	下折
あほむ	同	塩添 <small>替て訓ふる意あり</small>

五

あめやう	紀	徐 <small>又</small> 深沈
あづらみ	頭	柵 <small>川をせき岸のつらみをさくむらとて柴竹をて枕 みうらむ付るを云麻のきかすすかたはよむり</small>
あふゆ	種	執念 <small>私云字音多れハ奇ハハよむまゝ</small>
あやどく	同	あはれ <small>あはれと云</small>
あまふ	同	進赴
あらぶる	同	調
あらぬひ	万	不知火 <small>肥筑の方北海上に出る火光ハ世々より世々 あうあぬひのつらとつらと肥國元ト火國</small>
あご	三	親
あまろどり	傳	島ツ鳥 <small>カ</small> 鶉の枕詞
あぐら	同	繁釧 <small>又</small> 兵釧 <small>又</small> 五十鈴の枕詞

あつむる 種認

あぶらぎ 和垣衣 一名烏韭

あびりほ 同醢 肉醬也

あひのさ 梯下總 國也

あつめかひ 同端出之繩 又注連

あぶたぎ 響郭公 死出の山より来りて農をまむるを死出の田長といふと餘枝抄より考ふべし

スノ部

さ 栖箕負簾渚洲巢為酢不 訓濁

さそ 万襪ヲ裾

種認

和垣衣

同醢

梯下總

同端出之繩

響

郭公

三

さ 梯鈴 又鐸 又篤

さみ 和墨 摺すこゝ又炭 焚すこゝ又隅

さ 同麓 箱類也 又摺

さ 梯末 又居 又假髮 假覆髮也 又周淮 上總郡也

さ 和鋤 農具也 又漉 紙をとすこゝ又透 又好

さ 同焙煤 灰、集屋也

さ 梯吸

さ 傳杉 木各義 又過 又万ニ死 スキの約シ又シもあふ死をさきとす多し

さ 和菅 草名之下子をらる時をさきもの

さ 種澄 又清 又住 又濟

まて種捨又棄

まし和鮎食物之又養蕪草之似羊蹄葉細味酢者也

まべ万為便

まら同尚サナガラてよを約めたるおてをまるといふは同一又摘ていざるれど心ほるもきこゆ○種は採るのよまよちう

まら梯諏方信濃郡

まぢ同筋

まぢ同雀小鳥

まふ和巢又救又漉水中などの物を

まき梯鱸魚

まづ紀螺贏虫之常よハ似我蜂と云

三

すたま和魑魅鬼類

すめり同暇卵、不辨也

すき同薄とろすき又とろすき共云

すくれ同堇菜俗謂堇葵

すか種菁菜也

すへ同楚紀二管杖をほそすへふともりえとよめり

すり和李子一名黄杏

すぶ梯管生管の生くを云蓬生の類

すり和硯すきまうらう

すれ同簾編竹帳也

すまび 梯相撲 今角カと書又 住 住居と書ハ誤

すおほ 同質直 又 儉素

すむ 同涼

すむろ 同不覺 又 坐 イスキイハ発語

すほう 同周防 国々

すむけ 万多集 又種 集

すさび 響進 又 荒 大いしすいそまきさう方ふひてかまかれと

すくぐ 万浴 又 濯 そくぐ共云

すぶる 種統

すのこ 源 後拾遺義孝とれたるんき物を比以の月夜ふんく
んまきとせそ〇すうくうらうと一向よとらえらる

すい免 和眇

すのこ 同篁 床上籬竹名也

すくれ 種勝

すづく 万容儀 又 姿

すく糸 傳宿称 少ナ兄ノ氏ノ尸ニ

すくろ 種居

すけ 同煤

すさのを 梯須佐之男 神号々

すめらぎ 万天皇 又 皇祖神 神ニスメラキ〇スメラキハ統了君ノ義
ありて天皇を申奉る

すゑりの 和陶 瓦器々

四

すまのもの 和 禪 袴而無跨謂之禪

す急つむふ 玉 末摘花 これかゆの又かららぬのと云よりつきり

すまのま 和 少納言 職名

セノ部

せ 瀬湍兄迫背石花 二字一訓 諾 紀いふせのせふより

せり 和 芹 菜へ生水中也

せみ 同 蟬 虫へ私云本字音あそくたれも今もら用方あれあり

せぐ 万 塞 魚へ

せひ 和 鱈

せき 万 関 又 狹 所せきかとい

せふ 同 夫 又せこもり

せむ 万 將為 辞へ

せふ 和 錢 私云字音あそくし川激よりくもるあり

せうと 梯 兄 古へ兄とせ又エと云せうとい兄人へ

せは 種 忙急

せうか 遠 堰の類へ ほあのせうれり井へ

せむる 種 責

せまる 同 狹 又 迫

せらぎ 玉 小き溝へ 俗にせららんと云菱家万葉小○とせららちのあんでせけり山川の海きせららんとせららち

三

そら	万天 又 空 又 諸
そき	同退 又 離 <small>野のそき山のそきふとんそき人のききとんといひて遠隔を云</small>
そぐ	種省 又 断
その	和園 又 其 <small>物をきくて云辞</small>
そや	同征箭
そり	栞橈 <small>北国雪深き時荷を付て引物へ又雪車又轡を訓記さきまきまうそりててとて此まや</small>
それ	梯噌啖 <small>大隅郡</small>
そこひ	同涯 <small>天地のそこひはうらとよめう限りと云ことあれそ底は意同しそひ又ひかところハ非ん</small>
そびえ	同聳
そひみ	万背上 又 背向 <small>そむくとも</small>

三

そかへ	梯備 又 具
そかづ	種案山子 <small>梯註山田子鳥獸のそろろくふせり物へ山田ノソホドとのへる神の名より格すの</small>
そびら	記背平
そども	種背面 <small>外面と心得る俗へ</small>
そのふ	梯園圃 又 苑圃
そふき	源 <small>ふきふきふき同しきう好思奇子〇まゆりのきさやまうきふきふき松の枝にうせふそあれきぬらん</small>
そこら	種許多 又 若干 <small>其さく心得る俗へ万こそこわくあつらうらこれ同し</small>
そろひ	同揃
そくぎ	同濺 洗へ 又 粟 <small>大殿祭小取葺ケル草ノ粟キナクこれ洗ひそくぎと云こと</small>
そぐろ	同坐 <small>すゝろとも云</small>

四

そぼち	頭	そほぬれそほあふかきくまは同く ちをれひつをほかめてのし相へ
そよぐ	種	木葉わくまへ又木葉はあふあふては云新古今集 立田山楮まひくまあふまふまふくも麻のそよぐもこれ
そよむ	同	妬
そり	同	譏
そくや	湖	驚破
そかあ	種	其方
そひあ	同	添卧
そこあひ	梯	弊 又 損 又 壊
そのうこ	種	當時
そぼあ	同	雨の降へ

おとろくへさくやわくまへ云云新古今集
そくや木葉わくまへあふぬへくの類是あふへし
私云ノカの約ナシ

五

そぶつる	同	育
そほふ	梯	赭船
そよめく	種	小音
そらぐさ	種	空焼
そはのき	和	楓稜
そむむぎ	同	蕎麥
そひまめ	同	鷓豆
そはう	同	胡瓜
そふどう	傳	鳩鳥のむて青れ枕詞
そはのこ	同	楓稜は實のむてかきくの枕詞

香へ又空薫の義建武年中行支乞巧奠の
條子机の火さうまよまうそくそらぐさ
木へ又四方木湖月ニ文選ニそむむぎとよめく
うはそくうは山の推さるそむむぎとよめく
一云くろむむぎ性寒者へ

紫赤色者也

俗云きくり

そごろあ

同 副車

後車也

そふのしむ

同 添

の上 大和郡
下

そらつひり

傳 虚空津日高

谷川士清云天津日高ハ天子の
稱虚空津日高ハ太子の稱くと

いへり信子然るべし

六

